

| | | | |
|-----------|--|------|-------------|
| 時間割コード | 774302 | 開講区分 | 通年 |
| 開講科目名 | 認知行動生物学特論 | 定員 | |
| 開講科目名(英) | Advanced Course for Cognitive and Behavioral Neurobiology | 単位数 | 12単位 |
| 場 所 | 金沢校 | 年次 | 2～3年 |
| 担当教員 | 柴 和弘、辻 知陽(金沢校) | 授業形態 | 講義(オムニバス方式) |
| 講義題目 | 認知行動生物学特論 | | |
| 開講言語 | 日本語 | | |
| 授業の目的 | 本特論では、現代社会が抱える深刻な問題である「子どもの学習、社会性、行動の障害」を、こころが宿る脳の機能障害ととらえて、そのメカニズムを解明するための研究方法だけでなく、「脳を育み機能障害を克服するための方策・治療法」を提案するための教育研究を行う。 | | |
| 学習目標 | 遺伝子改変動物を用いた神経機能と関係するエピジェネティックな変化を調べる研究を実践でき、研究内容について議論できるようにする。 | | |
| 授業計画 | <p>(辻 知陽)</p> <p>モデル動物を用いた発達・認知・学習に関わる遺伝子の分子機構解明を目的とした研究指導を行う。また、このような遺伝子とヒト集団的遺伝学の成果から明らかにされつつあるヒト発達障害原因遺伝子とを比較、検討し、モデル動物を用いた発達障害研究の具体的方策について研究指導する。</p> <p>(柴 和弘)</p> <p>ヒト及び動物を対象とした非侵襲的分子イメージング技術が近年目覚ましく発展してきている。受容体、酵素機能、トランスポーター、異常タンパク及び遺伝子発現等の変化を念頭に置いた脳・精神疾患をターゲットとした分子イメージングの最新技術を取り入れ、早期診断・治療効果判定法の開発や創薬へと発展させるための研究指導をおこなう。</p> | | |
| 授業外における学習 | 研究に関する英語論文を調べ、自分の研究に応用していくこと。 | | |
| 教科書・参考書等 | そのつど、最新の文献を指導教員より配付する。 | | |
| 成績評価 | 2/3以上の出席を必須条件とし、ゼミナールでの発表、質問態度などをもとに合否判定を行う。2年間で12単位を与える。 | | |
| コメント | | | |